

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

COST CONTROLLER

Patent Number: JP6004558
Publication date: 1994-01-14
Inventor(s): OOHATA FUMITSUGU
Applicant(s): HOKURIKU NIPPON DENKI SOFTWARE KK
Requested Patent: ☐ JP6004558
Application Number: JP19920165662 19920624
Priority Number(s):
IPC Classification: G06F15/24; G06F12/00
EC Classification:
Equivalents:

Abstract

PURPOSE:To easily grasp the accurate sales cost by controlling these cost in a FIFO method and with use of a stock file having plural records to a single commodity and a sales file having a sales record including the purchase information.

CONSTITUTION:The input data supplied from a keyboard 1 are allocated from a stock file having a group structure set at a file part 9 of a memory 8 based on the dates set at a deciding means 6 and a setting part 10, the index information on each updated file, and an arithmetic means 7 of a control part 5. Then, a master record which controls the total stock is updated and the sales records are produced in the number equal to the allocated stock records. Then, the allocated stock information is set to each sales record.

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-4558

(43)公開日 平成6年(1994)1月14日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 15/24		7052-5L		
12/00	5 1 8 A	8526-5B		

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 12 頁)

(21)出願番号 特願平4-165662

(22)出願日 平成4年(1992)6月24日

(71)出願人 000242666

北陸日本電気ソフトウェア株式会社
石川県石川郡鶴来町安養寺1番地

(72)発明者 大島 史嗣

石川県石川郡鶴来町安養寺1番地北陸日本
電気ソフトウェア株式会社内

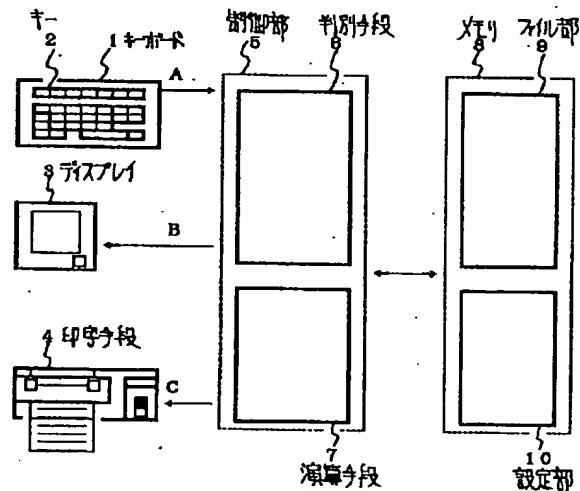
(74)代理人 弁理士 京本 直樹 (外2名)

(54)【発明の名称】 原価管理装置

(57)【要約】

【目的】 1商品に対して複数のレコードを持つ在庫ファイルと、仕入情報を持つ売上レコードを持つ売上げファイルとから、先入れ先出し法で売上原価を管理して、正確な売上原価を容易に把握することとする。

【構成】 入力手段1より入力された入力データを判別手段6と設定部10に設定されている日付や各更新ファイルの索引情報と制御部5の演算手段7とから、メモリ8のファイル部9に設定されている群構造をなす在庫ファイルから引当てを行い、在庫総量を管理する親レコードを更新し、引当てした在庫レコードの数だけ売上レコードを作成し、それぞれに引当てした在庫情報を設定する。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 入力データを入力する入力手段と、入力確認手段としての出力手段と、制御部と、入力データの種類の判別し入力データの数量と単価と1商品に対して単価と入力日付の違いから複数の子レコードと1つの親レコードを持つ群構造を成す在庫ファイルと、前記子レコードの単価と前記入力データの単価の違いから1入力データに対して複数のレコードを持ち在庫引当の在庫ファイルの単価が設定されておりかつ売上ファイルより在庫ファイルが一意に特定可能な索引構造を有する売上

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、製造業や卸売り業などにおける原価管理装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、製造業や卸売り業などにおける原価管理装置は、1在庫商品の数量などの情報を管理するレコードが1レコードであったために商品の売上原価を最終原価法で行っていたり移動平均法で行っていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上述した従来の原価管理装置は、移動平均法で原価管理を行うために月次で該当月の全売上データと全仕入データの集計を行う必要性が生じるなど、在庫商品の仕入価格に変動が合った場合に正確な原価を把握することが困難であり、また、移動平均法で原価管理を行うために、月次で、該当月の全売上データと全仕入データを集計する必要性が生じるなど、在庫商品の原価を容易に把握できないという弊害を有することとなる。

【0004】本発明はこのような従来の原価管理装置における問題を解決し、先入れ先出し法に基づいた原価管理を高速に行いかつ正確な売上原価を容易に把握する原価管理装置を得ることを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明の原価管理装置は、入力データを入力する入力手段と、入力確認手段としての出力手段と、制御部と、入力データの種類の判別し入力データの数量と単価と1商品に対して単価と入力日付の違いから複数の子レコードと1つの親レコードを持つ群構造を成す在庫ファイルと、前記子レコードの単価と前記入力データの単価の違いから1入力データに対して複数のレコードを持ち在庫引当の在庫ファイルの単価が設定されておりかつ売上ファイルより在庫ファイ

2

ルが一意に特定可能な索引構造を有する売上ファイルと前記売上ファイルの単価より在庫引当を行い前記売上ファイルと前記在庫ファイルを更新し前記在庫引当の結果および前記売上ファイルと前記在庫ファイルの更新結果をディスプレイ又は印字手段に発行指示を行う判別手段と、在庫引当数を計算する演算手段と、ファイル部および設定部とから成るメモリとを有する。

【0006】

【作用】本発明による先入れ先出し法に基づく原価管理装置は、1商品にたいして複数の子レコードと在庫の総量と原価管理する1つの親レコードとからなる群構造を成す在庫ファイルと在庫引当を行った子レコードの在庫情報（単価・在庫レコード索引情報）を持ちかつ在庫引当を行った子レコードの数だけ分割して作成されるレコードを持つ売上ファイルにより、正確な売上原価の把握が容易に行えることとなる。

【0007】

【実施例】次に、本発明について図面を参照して説明する。

【0008】図1は本発明の一実施例を示すブロック図、図2は本実施例における在庫データを格納する在庫ファイルの構造を表した図、図3(a)は本実施例における売上データを格納する売上ファイルの構造を表した図、図3(b)は図3(a)に示すものと別の領域に格納された売上ファイルの構造を示す図、図4は本実施例の動作を説明するフローチャート、図5は本実施例における在庫データを更新する動作（図4のステップ413）を説明するフローチャート、図6は本実施例における在庫データを更新する為の基礎情報を取得する動作（図4のステップ416）を説明するフローチャート、図7は本実施例における在庫データを更新する動作（ステップ417）を説明するフローチャート、図8は本実施例における売上データを更新する動作（ステップ418）を説明するフローチャートである。

【0009】本実施例は、キー2を備えた入力手段としてのキーボード1と、入力確認手段としてのディスプレイ3と、帳票印字手段としての印字手段4と、制御部5と、入力データの種類の判別し入力データの数量と単価と1商品に対して単価と入力日付の違いから複数の子レコードと1つの親レコードを持つ群構造を成す在庫ファイルと、前記在庫子レコードの単価と前記入力データの単価の違いから1入力データに対しての複数のレコードをもち在庫引当の在庫ファイルの単価が設定されておりかつ売上レコードより在庫子レコードを特定可能な索引情報を有する売上ファイルと在庫引当を行い前記売上ファイルと前記在庫ファイルを更新し在庫引当の結果および前記売上ファイルと、前記在庫ファイルの更新結果をディスプレイ3又は印字手段4に発行指示を行う判別手段6と、在庫引当数を計算する演算手段7と、ファイル部9および設定部10から成るメモリ8とから構成さ

れている。

【0010】メモリ8中のファイル部9には在庫データと売上データが格納され、図1のAは、受注データ、仕入データ、及び、棚卸データ（在庫ファイルまたは売上ファイルを更新するデータ）を示す。また、設定部10には当日の日付、及び、在庫ファイルと売上ファイルの索引部となる索引情報が設定されている。

【0011】次に図2と図3により在庫ファイル、及び売上ファイルの構成要件を説明する。

【0012】図2は在庫ファイルの構造を示す。

【0013】201は在庫ファイルの領域を表し、1商品毎の在庫の合計数量、及び、先入れ先出し法による売上原価（現在在庫として存在する商品の、単品毎の仕入価格の合計）が設定されている親レコードのデータ部206と商品が一意であること及び親レコードであることが識別できる要素が設定されている在庫レコードの索引部204を有する事を要件とする親レコード203と1入力データ（一般に仕入データと呼ばれる）毎の商品の数量及び仕入単価または仕入単価が容易に特定できる項目（数量×仕入単価）が設定されている子レコードのデータ部205と、商品が一意であること及び親レコードが一致に特定できること及び子レコード同士の発生の前後関係を明確にすることができる要素が設定されている在庫レコードの索引部204を有する事を要件とする子レコード群202が存在する領域である。従って、領域とは、例えば物理的に親レコードと子レコードが同一ファイル内に格納されていることを要件とするものではない。

【0014】子レコード202、及び親レコード203は、1商品に対して、一つの親レコードと複数の子レコードから成る商品レコード群構造を有していることを説明するもので、親レコードは構成要件を満たしていれば、時に独立して存在する必要はなく、例えば子レコードの索引順の先頭レコード、又は最終レコードを親レコードとするような、親レコードのデータ部と子レコードのデータ部と在庫レコードの索引部を有する親レコードと子レコード々から成る構成も考えられる。

【0015】図3は売上ファイルの構造を示す。

【0016】301は売上ファイルの領域を表し、1売上レコード312から子レコード202及び親レコード203を一意に特定できる在庫レコードの索引情報と1子レコードからの在庫引当の結果の数量と引当先の子レコードの仕入単価が設定されている在庫情報305と売上レコードが1入力データ（受注データ）に対して在庫引当の対象となった子レコードの数により複数に分割される構造311を有し、前記明細分割の場合に納品情報と受注、在庫情報との数量の整合性（1受注データに対して在庫引当を行った結果を印字手段4に1商品1行として印字する場合等）を保つために、売上レコードを前記明細分割の場合に一意にする売上レコードのブライマ

リキー302と分割された売上レコードの親レコードを一意にするキー303を有することを構成要件とする売上レコード311または312が格納されている領域である。例えば図3（b）に示すように、前記売上レコードの構成要件のみを持ち、一般に売上レコードと呼ばれる売上情報の設定されているレコードを索引部302で一意に判別でき、かつ、物理的に別領域に格納されている場合にも売上ファイルと同一である。

【0017】次に図4～図8により本実施例の動作を説明する。

【0018】まず在庫登録を行うオペレータは、キーボード1のキー2を操作して、在庫更新データ（商品コード、数量、仕入単価、入力データの種別を表す区分等）を入力する。制御部5は、このデータ中の入力データの種別を表す区分RKを判別手段6で判断（図4のステップ411）し（この場合はRKが1または2）、在庫ファイルを更新し（ステップ413）、更新結果をディスプレイ3および印字手段4に出力情報Bまたは印字情報Cとして出力する（ステップ420）。但し、ディスプレイ3と印字手段4は、必ずしも両方必要ではなく、また、RK（RK=1は在庫レコード群の登録、2は在庫レコード群の削除、3は仕入データ、4は仕入返品データ、5は売上登録（受注）データ、6は売上返品データを表す）で表される入力データの種別を表す区分も、フローチャートで処理な流れを説明するために便宜上設定したものであり、入力データの種別が判別できれば特に入力する必要はない。

【0019】次に、仕入データの入力を行うオペレータはキーボード1のキー2を操作して在庫更新データ（商品コード、数量、仕入単価、入力データの種別を表す区分等）を入力する。制御部5はこの中の入力データの種別を表す区分RKを判別手段6で判断（ステップ411）し、（この場合はRKが3または4）在庫ファイルを更新し（ステップ413）、更新結果をディスプレイ3および印字手段4に出力情報Bまたは印字情報Cとして出力する（ステップ420）。次に、この場合の在庫更新（ステップ413）について図5を用いて説明する。

【0020】まず、入力された在庫データ、及び仕入データが1在庫商品群のレコードを全て削除するデータかを制御部5は判別手段6で判断し（ステップ511）、該当する場合は、該当する1商品群を在庫レコードの索引部204を辿って全て削除する（ステップ511、520）。前記に該当しない場合は在庫レコードの登録処理として、まず、新規登録商品群かを制御部5は判別手段6で判断し（ステップ512）、新規登録レコードの場合は親レコードを1件作成し、親レコードのデータ部に数量と売上原価（数量×金額…それぞれ入力データの数量TS、入力データの単価T）を設定し（在庫ファイルの親レコードの在庫総数OS、在庫ファイルの親レコ

5

ードの売上原価OK)、在庫レコードの索引部に設定部10に設定されている在庫レコードの索引情報を設定する(ステップ514・515)。その後子レコードを1件作成し、子レコードのデータ部に数量と仕入単価を設定し、子レコードの索引部に設定部10に設定されている在庫レコードの索引情報を設定する(ステップ517・519)。また、ステップ517・519の処理中に子レコードの登録日付および更新日付に設定部10に設定されている当日の日付(入力データの発生した日付TB)を設定しているが(在庫ファイルの子レコードの更新日付KT B、在庫ファイルの子レコードの更新日付KK B)、これは、本フローチャートで説明されている動作の一例の在庫ファイルの子レコードの登録の前後関係を一意にするのに、日付の設定を行うのが汎用的であり、かつ、本動作での在庫ファイルの子レコードの構造が、1商品の連続した登録順序での仕入単価が同一である入力データを1子レコードにまとめているため、本発明を実現するために必ずしも必要なものではない。

【0021】次にステップ512で前記に該当しない場合は(ステップ411でRKが3または4に該当する)、親レコードに対して前記終了および売上原価の更新(ステップ515)のみを演算手段7を用いて行う。次に判別手段6を用いて、在庫レコードの索引順の昇順に検索できる最終の子レコードのデータ部に設定されている仕入単価と入力データの単価とを比較し、等しい場合は子レコードの更新日付を当日の日付で置き換え、子レコードの数量に入力データの数量を演算手段7を用いて追加し(ステップ519)、前記演算で得られた結果が0であった場合に(ステップ518)、該当する子レコードの削除を行う(ステップ520)。ただし、該当子レコードは特に削除しなくとも本発明の目的は達成することが可能であるが、当処理を除いた場合には、不要レコードが多量に発生することと、発生した不要レコードを一括で削除する仕組みの考慮が必要となる。

【0022】次に、ステップ516で入力データの単価と最終子レコードの仕入単価が等しくない場合に制御部5は判別手段6と演算手段7と設定部10と入力データを用いて前記在庫レコードの索引の昇順に最終子レコードを1件作成する(ステップ517・519)。

【0023】次に、図4より売上データによる在庫ファイルと売上ファイルの更新について説明する。

【0024】まず売上登録を行うオペレータは、キーボード1のキー2を操作して、受注データを入力する。制御部5は、このデータ中の入力データの種別を表す区分RKを判別手段6で判断(ステップ411・412・413)し(この場合はRKが5)、在庫子レコードを、入力数量と在庫引当を行った数量とが等しくなるまで在庫子レコードの索引の昇順の最終レコードより降順に在庫子レコードを更新した後に、在庫引当を行った在庫子レコードの数だけ売上レコードを作成する(ステップ4

6

15・417・418・419)。この場合の入力データと在庫更新の結果を比較する領域に設定される値については、本処理では入力数量と在庫引当を行った結果引当できた数量とを比較の対照として設定しているが、これは、本処理と同様の処理を行うことができれば設定値が特に数値である必要はない。

【0025】その後判別手段5は在庫引当の結果をディスプレイ3、または印字手段4に出力指示を行う(ステップ420)。ただし、本処理では入力データと在庫更新の結果を比較する領域に任意の値を設定しているので(後述)、前記領域を直接表示、または印字するものではない。

【0026】次に売上返品を行うオペレータは、キーボード1のキー2を操作して、売上返品データを入力する。制御部5は、このデータ中の入力データの種別を表す区分RKを判別手段6で判断(ステップ411・412・413)し(この場合RKが6)、返品を数量を追加し売上原価を更新する在庫親レコードと、在庫引当の元となった在庫子レコード、もしくは前記子レコードが既に削除済の場合には新規に在庫子レコードを在庫レコードの索引順の先頭に作成するための情報を売上レコード、又は入力データより得た(ステップ416)後、在庫ファイルを更新する(ステップ418)。本処理では、売上返品時の売上ファイルの更新処理は特に必要が無いので説明を省略しているが、通常の販売管理業務に照らし合わせた場合には、売上ファイルに売上返品データを登録する処理は必須であるため、ステップ418の処理をステップ416からステップ419までの間に追加することが妥当であると思われる。

【0027】在庫ファイル発信処理の後、制御部5は発信結果をディスプレイ3または印字手段4に出力する(ステップ420)。

【0028】次に、図6より、ステップ416の在庫ファイルを更新するための情報を作成する処理(在庫ファイル更新情報作成処理)を説明する。

【0029】まず、売上返品を行うオペレータが入力手段1のキーボード1のキー2から入力したデータの内の売上レコードのキー項目で判別手段6は売上ファイルより、売上返品元となる売上レコードを検索する(ステップ611)。検索できた場合には在庫子レコードを更新するために、在庫引当の元となった在庫子レコードのキーの値と、在庫レコード群の売上原価を更新するための仕入単価をそれぞれ取得する(ステップ616・617)。もし、売上返品を行うオペレータが売上返品元となる売上レコードを検索するための情報を入力できなかった場合や、売上返品元となる売上レコードが何らかの理由で削除済だった場合には、本処理の説明では入力データの内の売上を行った日付と仕入単価より前記在庫子レコードを判別手段6を用いて特定する(ステップ612・613・614)が、売上レコードが削除され

る可能性が無い場合には本処理は不要である。前記売上ファイルの検索処理で売上レコードが特定できた場合には、ステップ616と617の処理を行い、前記売上レコードが特定できなかった場合には、在庫子レコードを検索するキー値として、検索の対象となる商品群の在庫子レコードのキー値の内、最小である値よりも小さい値を制御部5は設定部10より設定する。

【0030】次に図7より、ステップ417の売上登録と売上返品時の在庫ファイルの更新（在庫ファイル更新処理2）を説明する。

【0031】まず、オペレータが入力したデータで制御部5は在庫ファイルに該当する商品群を検索する（ステップ711）商品群が検索できなかった場合には、入力エラーとしてその旨をディスプレイ3に表示するなどのエラー処理（ステップ713）を行う。親レコードが検索できた場合には、制御部が在庫引当の対象となる子レコード（売上登録の場合は子レコード群の先頭のレコード、売上返品の場合はステップ416の処理の結果設定された値）で子レコードを検索する（ステップ714）。検索できた場合には、該当子レコードから在庫引当を行い、在庫引当を行った結果引当できた数量HSと元の数量の差を在庫子レコードの数量KSに、設定部10に設定されている当日の日付を在庫子レコードの更新日付に、それぞれ設定する（ステップ716）。ただし、前記数量は自然数であり、前記更新日付は本処理の説明で在庫子レコードの検索を行うのに日付を使用しているために設定するのであり、日付を検索に使用しないのであれば特に設定する必要はない。

【0032】次に制御部5は判別手段6を用いて在庫引当の対象となった在庫子レコードの数量と0とを比較し（ステップ719）、0の場合には、在庫子レコードを削減する（ステップ720）。ただし、ステップ720については、ファイル容量の節約と検索効率の向上のために在庫子レコードの件数を減す例を説明しているために必要なのであって、在庫子レコードを削減する必要の無い場内には、ステップ719と720の処理は不要である。その後在庫親レコードの在庫数と売上原価を制御部5は演算手段7を用いて更新する（ステップ721）。

【0033】ステップ714で親レコードが見つからなかった場合は、売上登録データで在庫引当を行った結果欠品した場合と、売上返品時に図6の処理で返品元となる在庫子レコードが検索できなかった場合で、判別手段6が欠品だと判断した場合には（ステップ715）在庫の引当を終了する（ステップ720）。後者の場合には、在庫レコードの索引の昇順に検索できる最小の子レコードを作成した後に、入力データの数量と入力データの単価又は図6の処理で売上レコードより取得した仕入単価と入力データの日付より在庫子レコードの数量と単価と登録日付と、更新日付を更新した（ステップ717

・718）後に、在庫親レコードを更新する（ステップ721）。本処理の説明では、在庫子レコードの削除された商品に売上返品データがなされた場合には、前記売上返品レコードの入力順に在庫子レコードを逐次作成していく方式を説明しているが、これを実業務に照らし合わせた場合に、1商品を1つの棚（棚番）で管理している場合には、売上登録データよりも売上返品データの絶対数が少ないことも考慮すれば、仕入商品を後ろから、在庫引当を行った商品（売上返品商品を含む）を前から随時入出庫する仕組みさえあれば、先入れ先出し方による在庫管理という当初の目的は十分に達成できると考えられるため、もし、売上返品商品も売上げた順序で在庫管理を行いたい場合や、入出庫のタイムラグなどが発生する可能性のある場合には、本説明での売上返品処理のほかに、日時で売上返品データの在庫子レコードの索引を再作成する処理と1商品群を在庫子レコードの数だけ複数の棚番で管理する仕組みを考慮する必要がある。

【0034】次に図8より、売上レコードの作成処理（売上ファイル登録処理）を説明する。

【0035】まず、制御部5は判別手段6を用いて売上ファイルを更新する必要があるかを判断する（ステップ811）。売上ファイルの更新の必要が無い場合は、本処理を終了し、売上ファイルの更新の必要がある場合は、売上レコードを作成し（ステップ812）、今回登録する売上レコードが1売上登録に対する最初のレコードであるかを制御部5は判別手段6を用いて判別し（ステップ813）、最初のレコードである場合には売上レコード分割時の親レコードを一意にするキーに設定する採番された売上ファイルのキーに格納される値を設定部10より設定する（ステップ814）。なお、本説明の場合には、売上ファイルのプライマリキーの設定値をそのまま使用している。次に、売上ファイルのプライマリキーと売上レコード分割時の親レコードを一意にするキーに設定する採番された売上ファイルのキーの格納される値を制御部5は設定する（ステップ815）。次に、売上レコードに在庫引当の結果引当できた数量や、売上金額などの売上情報と、在庫引当先の在庫子レコードの仕入単価や在庫レコードの索引部に設定されていた値などの在庫情報を制御部5は設定し（ステップ816）、入力データと在庫更新の結果を比較する領域を更新する（ステップ817）。

【0036】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、在庫商品の在庫引当を在庫子レコード群の登録順に行い不要な在庫データを削除し在庫親レコードに売上原価と在庫の総量を設定し、売上返品時の在庫情報を売上登録時に売上レコードに設定しているために、先入れ先出し法の原価管理を行うのに特別の商品の管理（複雑な棚管理や商品の製造番号に基づく在庫データ管理や在庫マスタに登録する商品の仕入単価の数の制限による原価管理

上の制限)が必要なく、かつ、一時点での在庫商品の売上原価が総量が高速に検索でき、かつ移動平均法や最終原価法による原価管理とは違い、売上原価(仕入単価)が著しく変動する商品についても売上原価が正確に把握できるという利点を有する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示すブロック図である。

【図2】本実施例における在庫データを格納する在庫ファイルの構造を表した図である。

【図3】(a)は本実施例における売上データを格納する売上ファイルの構造を表した図、(b)は(a)に示すものとは別の領域に格納された売上ファイル構造の一例を表した図である。

【図4】本実施例の動作を説明するフローチャートである。

【図5】図4中のステップ413を説明するフローチャートである。

【図6】図4中のステップ416を説明するフローチャートである。

【図7】図4中のステップ417を説明するフローチャートである。

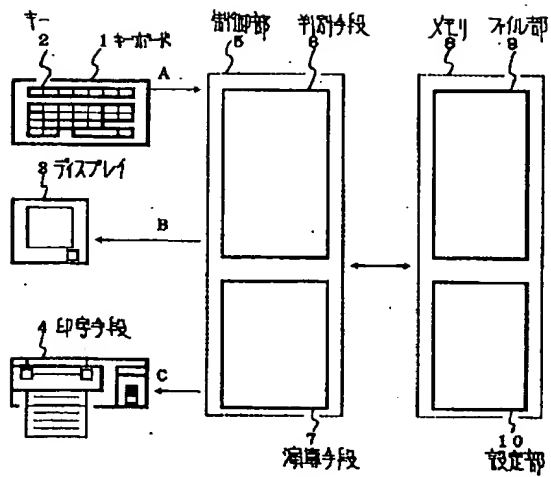
【図8】図4中のステップ418を説明するフローチャートである。

【符号の説明】

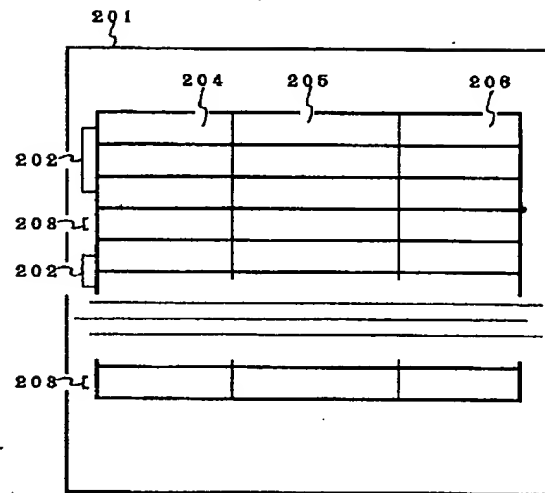
- 1 入力手段(キーボード)
- 2 キー
- 3 ディスプレイ
- 4 印字手段
- 5 制御部
- 6 判別手段
- 7 演算手段
- 8 メモリ
- 9 ファイル部
- 10 設定部
- 201 在庫ファイル

- 202 子レコード群
- 203 親レコード
- 204 在庫レコードの索引部
- 205 子レコードのデータ部
- 206 親レコードのデータ部
- 301 売上ファイル
- 302 売上レコードのプライマリキー
- 303 売上レコード分割時の親レコードを一意にするキー
- 304 売上レコードのデータ項目
- 305 在庫情報
- 311 売上レコードの分割例
- 312 売上レコード
- 313 在庫情報のみを持った売上レコード
- RK 入力データの種別を区分
- TTS 入力データと在庫更新の結果を比較する領域
- TS 入力データの数量
- OS 在庫ファイルの親レコードの在庫総数
- OK 在庫ファイルの親レコードの売上原価
- T 入力データの単価
- KT B 在庫ファイルの子レコードの登録日付
- T B 入力データの発生した日付(当日の日付)
- K S 在庫ファイルの子レコードの在庫数
- K T 在庫ファイルの子レコードの単価
- K K B 在庫ファイルの子レコードの更新日付
- S K T 在庫レコードの索引順の昇順に検索した最終の子レコードの単価
- H S 在庫引当を行った結果引当できた数量
- O P W 売上ファイルの分割元(在庫ファイルの複数の子レコードから在庫引当を行った場合に分割レコードが発生する)のキーを格納する領域
- N O P 採番された売上ファイルのキーに格納される値

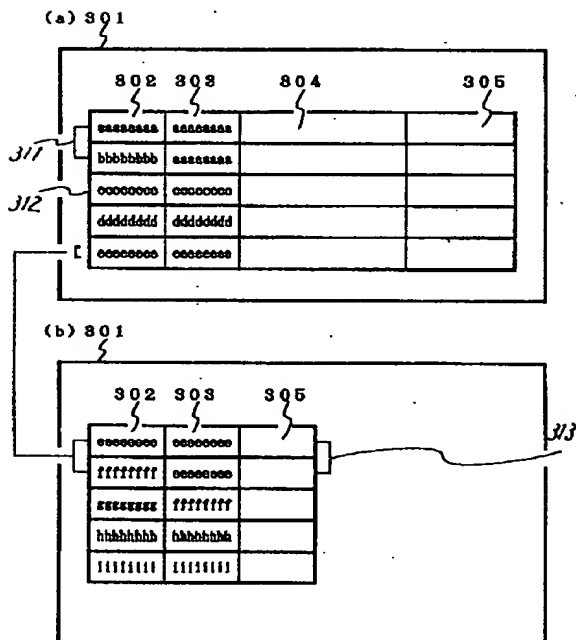
【図1】



【図2】



【図3】

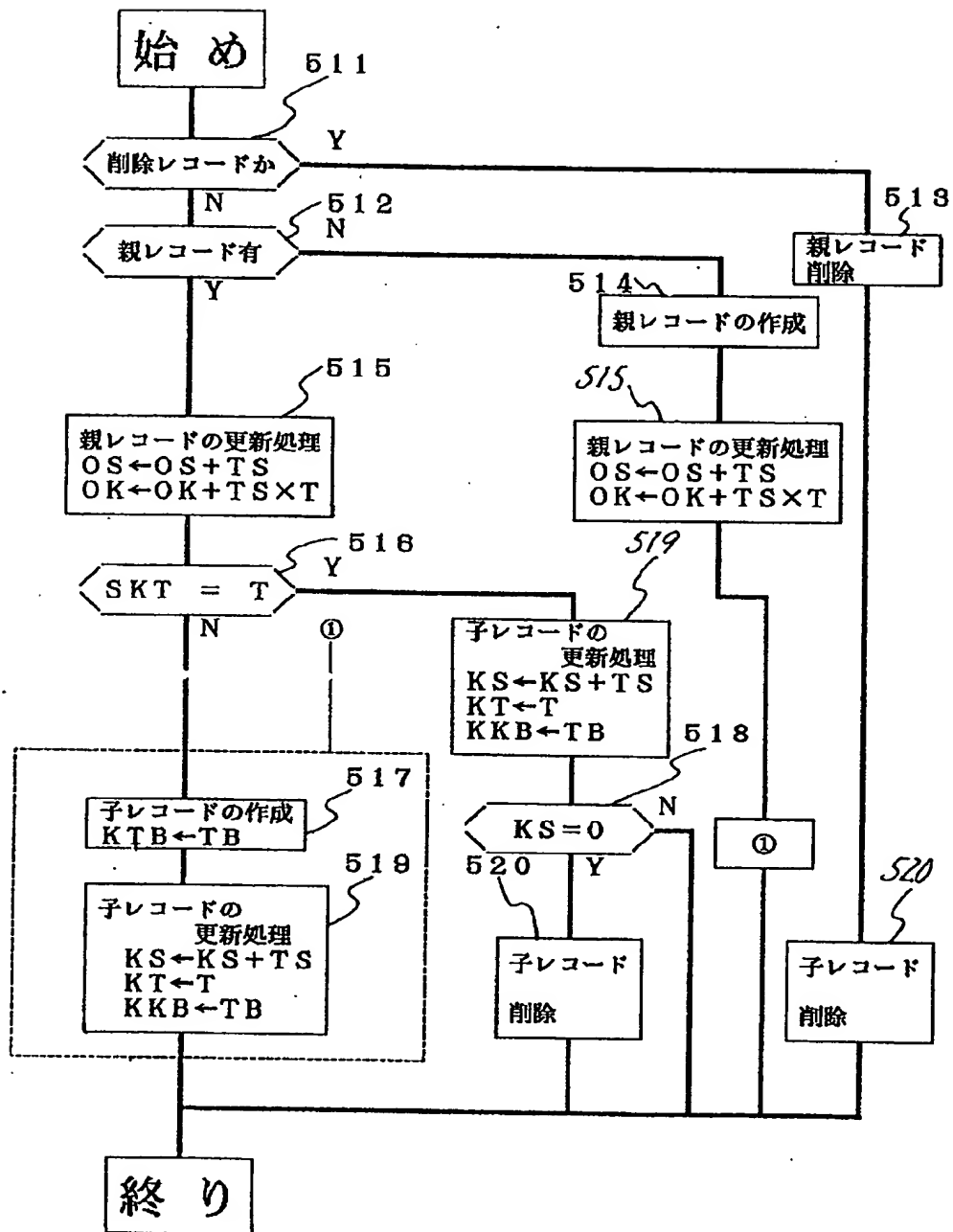


```

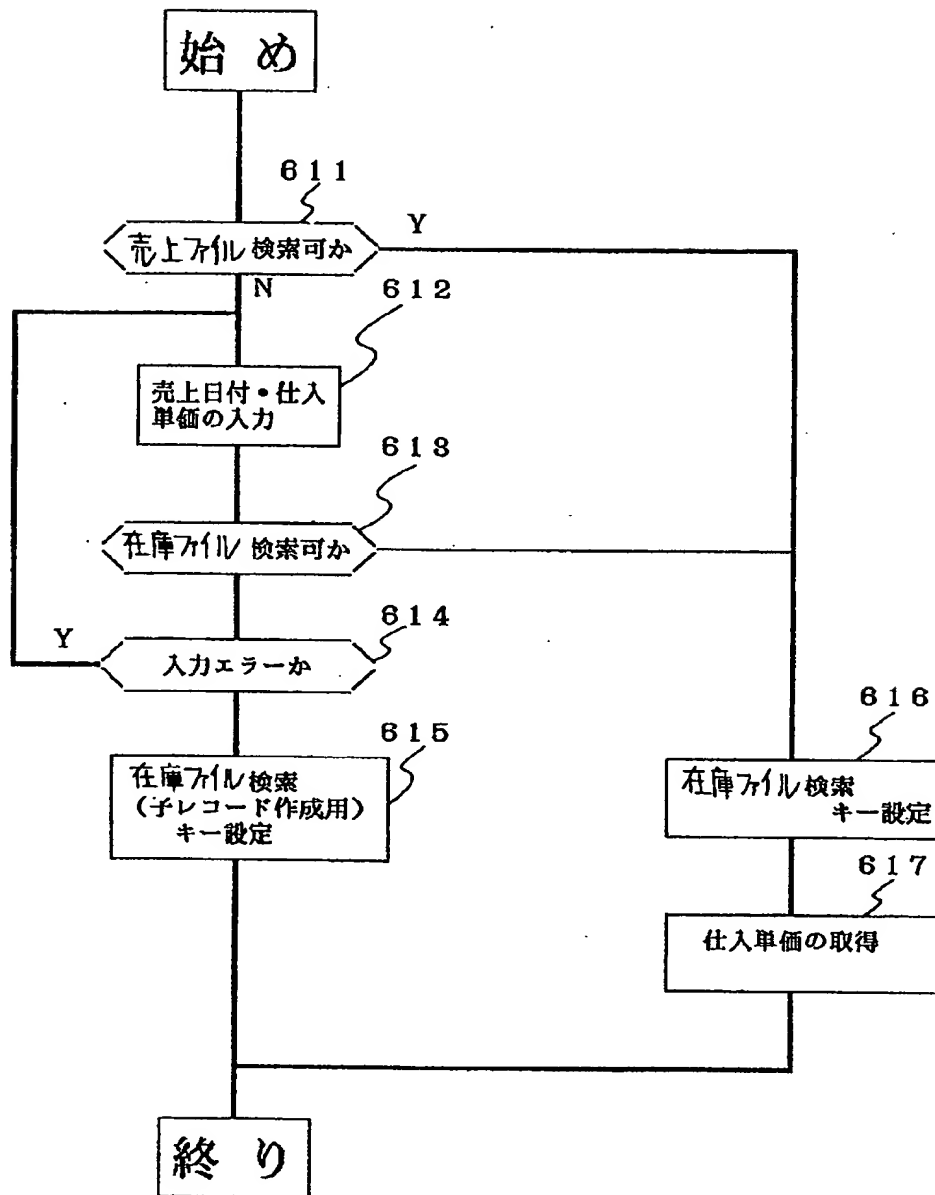
graph TD
    Start([始め]) --> J1{RK = 1 or 2 or 3 or 4}
    J1 -- Y --> J2{RK = 5}
    J1 -- N --> J2
    J2 -- Y --> J3{RK = 6}
    J2 -- N --> J4{RK = 5}
    J3 -- Y --> TTS1[TTS=0]
    J3 -- N --> TTS2[TTS=0]
    TTS1 --> J5{在庫ファイル  
更新情報  
作成処理}
    J5 --> J6{在庫ファイル  
更新処理2}
    J6 --> J7{在庫ファイル  
更新処理2}
    J7 --> J8{TTS=TS}
    J8 -- Y --> J9[更新情報  
表示・印字  
処理]
    J8 -- N --> J5
    TTS2 --> J10{在庫ファイル  
更新処理2}
    J10 --> J11{売上ファイル  
登録処理}
    J11 --> J12{TTS=TS}
    J12 -- Y --> J13[更新情報  
表示・印字  
処理]
    J12 -- N --> J10
    J9 --> End([終り])
    J13 --> End
    J14[ファイル2  
更新処理1] --> End

```

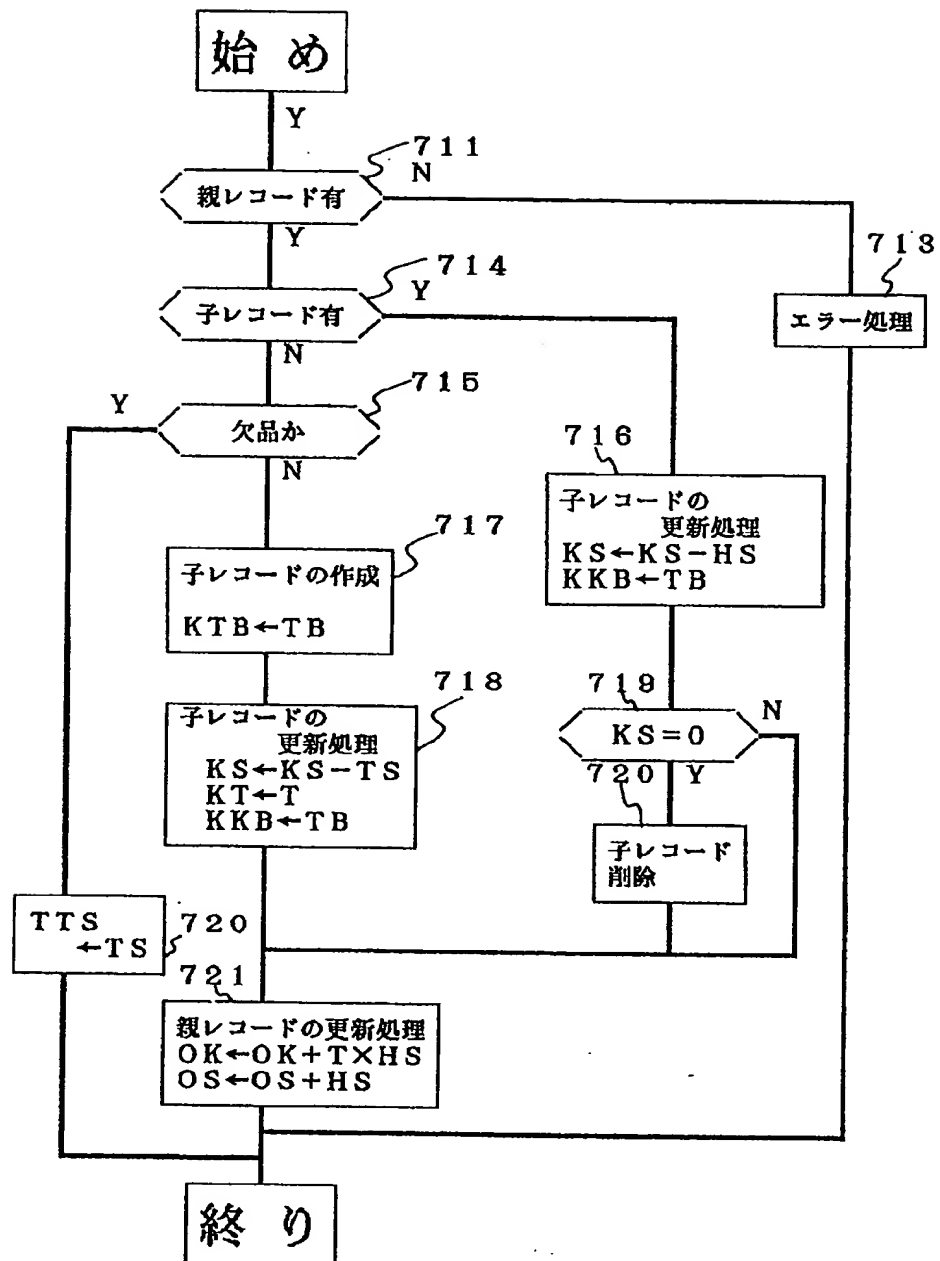
【図5】



〔図6〕



【図7】



【図8】

